2020.8.19 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校夏のセミナー
生涯にわたって学びに向かい、成長するためには？

知的障害者の生涯発達
～はたらく、くらす、たのしむ、つきあう～

平井　威
明星大学客員教授・明治大学兼任講師

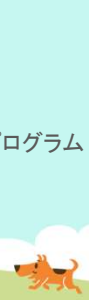
今日のお話

目標
子どもたちが生涯にわたって成長し続けるために、いま学校教育と特別支援教育に携わる人に何が必要かがわかる

コンテンツ
1. はじめに：内海先生の思い出　研究テーマについて　知的発達症とは　私たちの実践研究から・・・
2. はたらく：キャリア教育と雇用促進法の成果
3. くらす：親がかりが気がかり
4. たのしむ：生涯学習化と文化芸術推進法が後押し
5. つきあう：インフォーマルなつきあい、愛と失敗の権利
6. 「人としての働き」を高めるために：3つの前提体験を！

1. はじめに

1. 養護学校進路指導研究会と東京学芸大学公開講座「自分を知り社会を学ぶ」の開講（1995年）
   ・・・内海先生と私
2. 「特別支援教育の生涯学習化」を正面に据えた研究テーマ
   ・・・皆さんへのリスペクト
3. 知的発達症、その構成的概念と生涯発達支援の意義
   ・・・改めて「知的障害」を考える
4. 文部科学省委託研究「セルフアドボカシー支援に向けた学習プログラムに関する取組」（特定非営利活動法人　PandA-J）
   ・・・自己紹介に変えて



内海先生と作った進路指導研究会と公開講座（オープンカレッジ東京）

共通の恩師
大井清吉先生

東京学芸大学公開講座の様子

人として
あたりまえの4つの願い

- 私たちも働きたい
- みんなと一緒にくらしたい
- 楽しく生きたい
- 無用の存在でなく、有用の存在と思われたい

滋賀　信楽青年寮の創始者　池田太郎

『青年期以降の生活の充実』(現在の全特連機関誌「特別支援教育研究」の前誌である「精神薄弱児研究」1984年11月号)

出会った生徒たちから学んだこと⇒「生活機能としての障害」そのものの苦労より、「貧困や虐待といった環境」による苦労の方が大きい。

ライフコース研究へ

量的・横断的調査からでは見えてこない問題もある

質的・縦断的研究デザインの採用

「ライフコース・アプローチによる知的障害者の生涯発達支援に関する縦断的・質的研究」
(MEXT/JSPS KAKENHI Grant Number 26590263)

2014－2017

知的障害者と家族・支援者の語りとポートフォリオによる成育史分析
20代~50代、5名それぞれのライフコース

結婚推進室「ぶ～け」共同研究
知的障害者への恋愛・結婚・子育て支援と地域生活の在り方

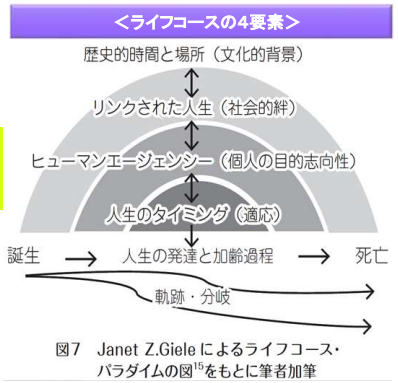
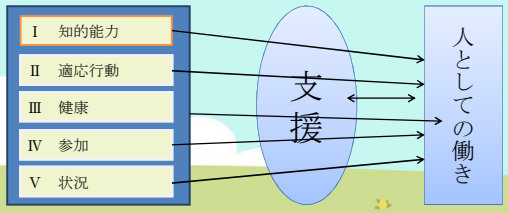


図7　Janet Z.Giele によるライフコース・パラダイムの図[15]をもとに筆者加筆

知的能力障害(知的発達症/・・)　DSM-5日本語版で採用)

知的障害とは、人の能力とその中で人が果たす情況とのミスマッチである。つまり、知的障害とは、人に内在する条件(例えば知性の緩慢さ)を指すのではなく、機能の状態を意味するのであって、次に見る5つの次元とその支援のあり方との相互作用によって可変的な「人としての働きの制約」である。(2012　AAIDD第1版)



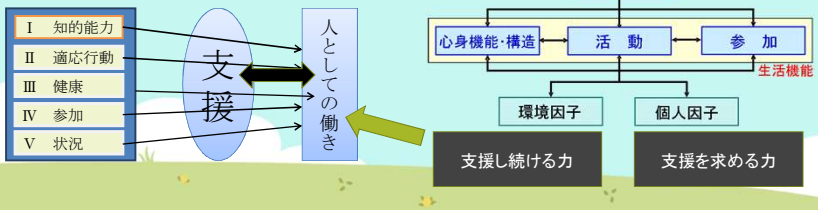
したがって、特別の支援を要さずに日常生活や社会生活において支障なく活動できている場合は“知的障害を有する”とはしない

生涯学習支援(生涯にわたる発達支援)の必要性

したがって、特別の支援を要さずに日常生活や社会生活において支障なく活動できている場合は“知的障害を有する”とはしない

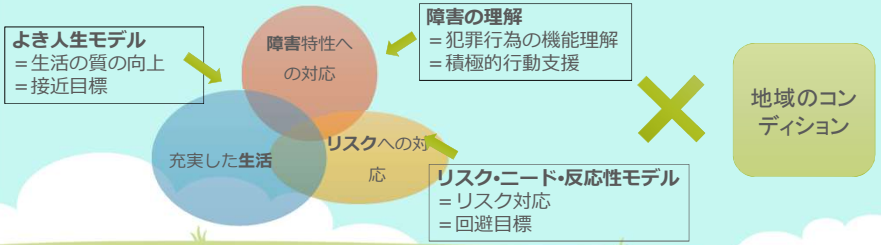
逆に言えば、日常生活や社会生活において支障なく活動するためには“生涯にわたって特別な支援が必要”ということ

学校教育の役割は、“児童生徒が生涯にわたり学習する基盤を培う”ことだが、この“基盤”をICFの背景因子ととらえると・・・



生きづらさを抱えた障害者のための 問題行動からの離脱学習プログラム開発

「相乗モデル」による更生支援　　**地域の支援ネットワーク構築**



（Frize 2015をもとに改編；Frize in press）

© 2020 PandA－J

問題行動の改善・犯罪者処遇のトレンドはグッドライフ・モデル

「こんなことをしてはいけません」「こんなことをすると犯罪になります」「これは刑法○上です」
「こんなことをしないために、さぁ、考えましょう」「どうすればいいですか」と、言われたとしても、、、、

人に言われた事には従う(迎合性を高めてしまう)が、
ダメだと言われたら、考えなくなる・相談しなくなる(思考の一時停止が高まってしまう)
誰にもわからなかったら「これくらいしてもいいだろう」(行為の隠蔽へ)と思ってしまう
⇨指示や命令で動いてきた人ほど、軽微な犯罪をするのではないか？
自分の判断ではなく、他者の指示や評価で動くことしか学んでこなかった人は、内発的な道徳性が育たない。
問題行動を起こす人は、「ありのままの自分」ではいけないというメッセージをたくさんもらってきた人　※岡本茂樹、『反省させると犯罪者になります』(2013)新潮文庫

これからは、より良く生きる意欲を喚起し、主体的な活動を引き出す学びと生活を作り出すこと

グッドライフ・モデル
ストレングスを伸ばし、ニーズをより適応的に満たせるような生き方を選びとるように導くアプローチ

© 2020 PandA－J

治療教育的介入の条件と目標、方法

問題行動のある人が、自分の問題と向き合い真っ当な生き方を選択するようになるためには少なくとも次の3点が前提。
1）自分にも豊かな人生が切り開けると言う「将来への希望」
2）ありのままの自分が他人に受け入れられるという「受容的体験」
3）誰かの役に立ち誰かに喜ばれるという「愛他的経験」
Irvin D. Yalom著　中久喜雅文・川室優監訳(2012)『ヤーロム　グループサイコセラピーの理論と実践』、西村書店

そしてようやく、問題を改善するための具体的スキルを身につける努力が始まる。
目標　　やらされることより自らやることの育成、すでにある自分の受容と感情を表現する自律性の獲得
効果的な関わり方と眼差し
褒める、共感する、暖かく接する、見通しを持たせる、励ます
⇨「本当のあなたのままが良い」と言う人生への共感と小さな変化への気づき
＊「良い担当者の特徴は、暖かさ、共感、励ますこと、ガイダンスの提供。良いグループの特徴は、凝集性(支持的・相互尊敬)、表現性(話すこと、感情的自由)にある」
(William L.Marshall)

© 2020 PandA－J

誰もが「生きづらさ」を感じている現在
それが「問題行動」につながるかどうかは多因子が関与
「治療教育的介入の条件と目標、方法」は、普通教育においても重要

文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」委託事業

セルフアドボカシー支援に向けた　学習プログラム キープセーフFC(forチェンジ)の開発

NPO法人 PandA-J Protection & Advocacy Japan

乞うご期待！

2　はたらく

- 特別支援学校におけるキャリア教育
- 福祉、教育、労働の連携による移行支援
- ハローワーク、障害者職業センター、障害者就労支援センターなどによる支援（ジョブコーチ支援など）
- 障害者雇用促進法制と企業の社会的責任・法令順守の前進
- 農福連携のとりくみなど地域における福祉的就労継続支援事業の努力

東京は約半数の卒業生が一般企業就労

社）全国地域生活支援機構HPより

■ 東京の推移
都立特別支援学校高等部（知的障害）：状況別卒業者数（平成２９年度）
平成３０年度公立学校統計調査報告書【公立学校卒業者（平成２９年度）の進路状況調査編】

卒業者計	進学者	専修学校等入学者	社会福祉施設入所、通所者	就業者	在家庭者	その他
1550人（100%）	2人（0.1%）	5人（0.3%）	727人（46.9%）	**774人（49.9%）**	41人（2.6%）	1人（0.1%）

■ 全国の推移
特別支援学校高等部（本科）知的障害者の卒業後の状況－国・公・私立計－（平成２９年３月卒業者）
平成３０年度公立学校統計調査報告書【公立学校卒業者（平成２９年度）の進路状況調査編】

卒業者	進学者	教育訓練機関等	就職者	社会福祉施設等入所・通所者	その他
18321（100%）	66（0．4%）	276（1．5%）	**6029（32．9%）**	11262（61．5%）	688（3．8%）

区分	卒業者	進学者	教育訓練機関等	就職者	施設・医療機関	その他
	人	人	人	人	人	人
知的障害	18,667	76（0.4%）	241（1.3%）	6,338（34.0%）	11,267（60.4%）	746（4.0%）

学校基本統計令和元年　平成30年3月卒業生

障害者雇用促進法制と企業の社会的責任・法令順守の前進

- 雇用率への知的障害者、精神障害者の参入と雇用率（従業員50人以上の民間事業所では2．2%の雇用義務）の拡大

◎国等が率先して障害者を 雇用する責務の明確化

◎週20時間未満の障害者を 雇用する事業主に対する 特例給付金の新設

現行の障害者雇用率（令和3年1月1日より、さらに0.1%ずつ引上げ予定。）

＜民間企業＞ 民間企業 ＝ 2．2% 特殊法人等 ＝ 2．5%

＜国及び地方公共団体＞ 国、地方公共団体 ＝ 2．5%

都道府県等の教育委員会 ＝ 2．4%

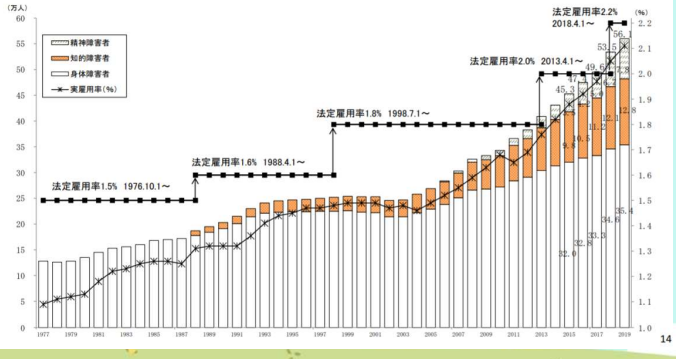
- 大企業における雇用の前進

障害者多数雇用事業所での雇用　（特例子会社：平成29年6月1日現在　464社）

障害者雇用の状況

（2019年6月1日現在）

○ 民間企業の雇用状況
雇用者数 56.1万人（身体障害者35.4万人、知的障害者12.8万人、精神障害者7.8万人）
実雇用率 2.11%　法定雇用率達成企業割合　48.0%
○ **雇用者数は16年連続で過去最高を更新**。障害者雇用は着実に進展。



14

農福連携で障害者も農家も町も元気に！

NPO法人　Ohana　　私が理事をつとめる都市近郊福祉就労の一例

Ohanaは、知的障がい者をはじめとして、どんな障がいのある人でも、自分の住む町で豊かに、ひとつの家族(Ohana)のように支えあい、暮らしていけるよう、地域と社会の福祉の増進に寄与します

①地域農園とのとの連携
- 栽培活動への参画
- 援農活動（収穫の手伝い）
- こくベジ活動との連携

②樹林地ナーセーリー構想と農家レストラン・喫茶
- 国分寺市との連携

③空農地の有効活用と就労支援事業の拡大
- JA・国分寺市との連携

http://www.npoohana.org/index.html
https://ameblo.jp/npo087/entry-12374159777.html
https://www.facebook.com/npo.ohana

今後の方策（私の提言）

企業就労→はたらくひとを守る
正規雇用、障害者労務管理者の育成

福祉事業所→「三匹のリス」で当事者を支える

Respect　障害をもって生きる人への尊敬
Response　しっかり応答する
Resource　資源を発掘する

3. くらす　　暮らすことの支援

- 障害者手当、障害基礎年金による生活保障（ただし、軽度障害者は雀の涙ほど）
- 共同生活援助（グループホーム）、自立生活援助
- 宿泊型自立訓練（通勤寮）、施設入所支援
- 移動支援（ガイドヘルプ）
- 家事援助（ホームヘルプ）
- 意思疎通支援などの地域生活支援

障害者総合支援法による障害支援区分に応じた支援

しかし、親と暮らしている人が90%以上

・なかなか進まない在宅からGHへ
　☞GHの質が問われている。
・保護者（親）と障害者の5080問題

表8　生活保護費受給者数（有効回答：14,745、単位：人）

受給している	受給していない
1,677 (11.4%)	13,068 (88.6%)

表9　障害年金の種別（有効回答：14,012、単位：人）

基礎年金1級	基礎年金2級	厚生・共済年金
5,263 (37.6%)	6,111 (43.6%)	620 (4.4%)

表10　月額収入の分布（有効回答：12,531、生活保護受給者を含んでいない、単位：人）

0円	1円～	1万円～	2万円～	4.2万円～	8.3万円～	10.5万円～	12.5万円～	16.7万円～
235 (1.7%)	699 (5.0%)	499 (3.6%)	461 (3.3%)	6,839 (48.8%)	2,987 (21.3%)	1,568 (11.2%)	478 (3.2%)	246 (1.8%)

障害のある人の81.6%が、相対的貧困以下の生活になっている

2016年きょうされん発表、
約15000人調査結果

解決への道（私の提言）

家庭→はなれる　GH利用、世帯分離

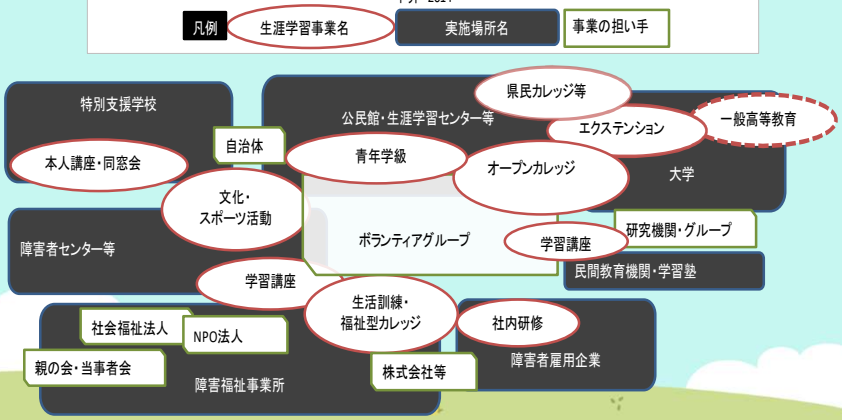
地域→つながる　当事者を囲む信頼の人垣・ネットワークづくり

4. たのしむ

- デイケアー（障害者生活支援事業所）による多面的な活動保障
- 障害者青年学級
- 障害者スポーツセンター等
- 親の会、自助グループ、任意団体によるボランタリーなサービス
- 特別支援学校卒業生の会等の活動

主として知的障害者を対象とした生涯学習の状況

平井　2014



障害者スポーツやアートの振興

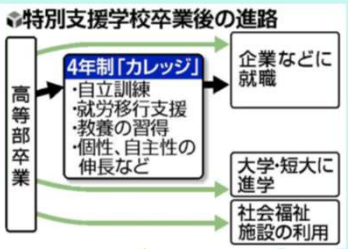
Special Project 2020

障害者による文化芸術活動の推進に関する法律の施行　2018.6

「もっと学びたい」というニーズに応える福祉型カレッジ

- 「専攻科」をつくる運動
- 「カレッジ」という試み
  自立訓練事業所の新たな挑戦

エコールKOBE
http://eko-ru.jp/



養護学校で学べなかった教養の学び

「ディスカバー・ジャパン」（民俗学）

「犯罪科学捜査」（化学実験）

学ぶ楽しさ、学ぶ仲間との出会い

オープンカレッジの試み

①知的障害者の教育権・発達保障　②地域社会に対する大学等の貢献
③地域ネットワークの構築：

ユネスコ　1996　ドロール・レポートより

知ることを学ぶ、為すことを学ぶ、共に生きることを学ぶ、人として生きることを学ぶ
(LEANING　TO KNOW, TO DO,
TO LIVE TOGETHER　&　TO BE)

＋

体験を通して学ぶことの得意な知的障害者

・働くことと学ぶこととの結合
・学んだことを生活に生かす
・一緒に学び、共に生きる

https://twitter.com/oc_shimadai_294

Find us on Facebook

特別支援教育の生涯学習化への道（私の提言）

施策のポイント

誰もが，障害の有無にかかわらず共に学び，生きる共生社会を目指して一有識者会議報告から考えたこと

1. 学校教育から卒業後における学びへの接続
   ⇒新学習指導要領の改訂方針の３！
   個別の教育支援計画（移行支援）の活用
2. ライフステージと学習ニーズに応じた学習の保障
3. 取組を推進するためのシステムづくり・基盤整備
   ⇒学びに関する相談支援体制、つなぐ人材の必要性
4. 障害の有無にかかわらず，共に交流し学び合う環境を
   ⇒一般の学習講座に障害者が参加できるような合理的配慮

「障害者生涯学習振興法」（仮）を制定し、基本計画を策定して
国、地方自治体、民間を挙げた取組にしたい！

5. つきあう　　愛する人とつながる支援

- フォーマルなおつきあいのマナーは、就労支援で
- 友だちとのつきあい
  →地域活動支援、インフォーマルな仲間への「支援」
- 子どもの頃からの性と関係性の学習
- パートナーとの良好な関係構築・共同生活（結婚等）の支援
- 性の誤学習への修復支援

モテるために集まった!?

～知的障害者のサークル「モテてモテて困っちゃう（MMK）」～

NHKバリバラHPより

第3回 糸賀一雄記念未来賞 受賞

「親子関係の悩み」（2012年10月）に登場した滋賀県大津市の知的障害者のサークル、ＭＭＫ。「モテてモテて困っちゃう（＝ＭＭＫ）」を目指して活動中だ。性の悩みやファッションなど、親に相談しにくいことをメンバー同士で話したり、ＢＢＱやショッピング、旅行などを楽しみながら男を磨いたりと、活動内容は盛りだくさん。発足して約２年、あらためてメンバーのみなさんのＭＭＫへの思いとは？ 今回、話してくれたのは岡本さん、北岡さん、町田さん、横川さん。なんとも和気あいあいとしたムードは、まるでファーストフード店に集まる高校生のようだった。

シェアハウスに暮らす仲間

イングランド東南部ブライトンに暮し、生活の様子をWebで発信している

In 2016, Hilly was sharing a house in Brighton with her friends.

提唱されて既に半世紀　ノーマライゼーション

Bengt Nirje

社会の主流となっている規範や形態にできるだけ近い生活条件を知的障害者が得られるようにすること

①一日のノーマルなリズム
②一週間のノーマルなリズム
③一年間のノーマルなリズム
④ライフサイクルにおけるノーマルな発達経験
⑤ノーマルな個人の尊厳と自己決定権
⑥ノーマルな性的関係
⑦ノーマルな経済水準とそれを得る権利
⑧ノーマルな環境形態と水準

でも、未だに・・・

3年前、津久井やまゆり園で起きた事件は、改めて未だ多くの知的障害者が大規模入所施設で暮らしているという我が国「ノーマライゼーション」の現状を示した。「東日本の14県に41施設あり、定員3212人の約9割が都民だ（毎日新聞2017. 7.20）」という。

「旧優生保護法は憲法違反」訴えは退ける 仙台地裁
2019年5月28日 18時30分
旧優生保護法のもとで障害を理由に強制的に不妊手術を受けさせられた人たちが国に賠償を求めた裁判の初めての判決で、仙台地方裁判所は、「旧優生保護法は子を産み育てる幸福を一方的に奪うものだ」として、憲法違反だったという判断を示しました。しかし、賠償を求められる期間が過ぎているとして、訴えを退けました。

性をエンジョイすることは人間らしく生きること

障害をもつ子どもも大人も、ふつうの人々と同じように、性をエンジョイする（楽しむ）ことが人間らしく生きることに欠かせないことだということを確認しておいてください。・・・障害をもつ子どもの「性を育てる」性指導は、ノーマライゼーションのカギを握っているのです。・・・

どうしたら障害をもつ子どもも、ガールフレンドやボーイフレンドを作れるようになるだろうか、
どうしたら障害者が恋人をつくり、結婚するようになるだろうか、
どうしたら障害をもつ夫婦がセックス・ライフを含めてよい家庭生活を送ることができるだろうか、と前向きに考えてほしいと思います。

30年前の師：大井清吉先生のことば

「性をエンジョイする」支援？
ライフサイクルにおけるノーマルな発達経験

知的障害者のライフコースを概観すると定型発達の人々とは著しく異なる点がある。それは、恋愛関係、結婚・パートナーとの生活、子育て経験という人生ステージの欠如である。

*権利としてのセクシャリティー

*障害者の権利に関する条約（第19条a）「どこで誰と生活するかを選択する機会を有すること」、（第23条a）「合意に基づいて婚姻をし、かつ、家族を形成する」こと及び「生殖及び家族計画について年齢に適した情報及び教育を享受する」権利を認め、それらを確保するための効果的かつ適切な措置をとることを国に求めている。

*障害者総合支援法第1条の二（基本理念）「どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々と共生することを妨げられないこと」が掲げられ、その「障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものの除去」をうたっている。

*知的障害者のセクシャリティーへの権利の承認を前提としつつ、それを実質化するうえでの当事者と支援者の意識の違い、あるいは従属関係を組み替えて、いかに共通の価値観や支援の仕組み、望ましい関係性を作り出すかが課題　（平井威2016）

* 意思決定支援ガイドライン（案　H.27.12）

意思決定の内容（人生の領域）：

住む場所、働く場の選択、結婚、障害福祉サービスの利用等
（厚生労働省社会保障審議会障害者部会）

これまで支援課題とはとらえられていなかった結婚が、居住、就労、障害福祉サービス利用と並んで意思決定の内容に挙げられている。

（残念ながら、H29.3の成文では「住まいの場」に矮小化されている）

つまり、人生の選択に関わる計画を立案する相談時に、「住む場所の希望は？働く場所は？どんな障害福祉サービスを利用したいですか？」などと当事者の意向を伺うことと並んで「結婚はしたいですか？」と聞くことが当たり前になる。

「結婚したい」と言った当事者に、結婚相手を見つけるための情報を提供したり、結婚相手を求めている異性を紹介したり、結婚するためにはどのようなスキルが必要で、それをどのように身に着けるのか、どのような条件が必要なのか説明したり、訓練したりするサービスが提供されるようになる・・・？

利用者の夢：就労して自立
でも、稼いだお金でなにすっとね？

知的障害者のライフコースと恋愛・結婚・子育て
結婚推進室「ぶ～け」調査から

＊長崎県雲仙岳の裾野、有明海を望む丘 南高愛隣会

結婚推進室「ぶ～け」とは！？
～一人ひとりの幸せのかたちの実現を～

・http://www.airinkai.or.jp/service/ainai bouquet

「くらす」を支える多様なグループホーム

朝・夜支援型ホーム

宿直型ホーム

県下 148 棟

マンション（1人×3）

子育て

夜勤型ホーム

「ぶ～け」のシステム

愛する人との生活を支える

1. 登録者同士の出会いのチャンスを創る
2. 交際のフォローアップや愛する人との暮らしづくりを応援
3. 豊かな暮らしが続くようサポート

法人自主事業　ぶ～けの概要

平成１５年より発足（発足時は世話人２名）
テーマ「ふつうの場所で愛する人とのくらしを」
平成２６年より契約制になる

＜活動内容＞

■A会員
（恋活・婚活・自分磨き希望対象者
…会費1ヶ月2,500円）

★出会いの場の設定
・恋活パーティー・プチ恋活パーティーの開催
・スキルアップスクールの開催
★相談
・気になる人へのアプローチ相談
・お相手紹介・きっかけづくり
・デートコーディネート
・意思確認・交際アドバイス
・パートナー生活に向けてのアドバイスなど

■B会員
（結婚・子育て希望対象者
…会費1ヶ月1家族5,000円）

★相談
・パートナー生活に係る相談とアドバイス
・夫婦関係・妊娠・出産・育児の相談
・アドバイス
★情報交換・仲間作り
・井戸端会議会（女性同士・男性同士のおしゃべり会）開催
・四ツ葉会（カップル交流会）

■C会員
（婚活パーティーの案内・情報提供希望者
…会費無料）

★恋活パーティーのお知らせ

支援実績について

平成２９年4月現在 実績

会員　（昨年まで　１９３名）	１９０名
	２組
子育て中の家族	
組　数　月 平 均）	１２２件

登録者男女比率

女性　７２名

男性　１１８名

登録者年齢

21歳～70歳以上

相談中の様子

支援付きパートナー生活

2LDKの一軒家に暮らし、毎日世話人さんが様子を見に来てくれます。食事は調理材料の宅配です。

このお二人は、戸籍上の夫婦ではないけれど、式も挙げて、二人で暮らしています。

ぶ～け　動画

著書紹介

ISBN978-4-86584-137-4
学術研究出版 (2016/5/25)
価格：1,990円 (税込)

https://bookway.jp/modules/zox/index.php?main_page=product_info&products_id=786&cPath=193

	人数a	努力数b	努力値 b÷a	群間倍率
交群で結婚生活が夢	38	93	2.45	6倍
探群で結婚生活が夢	36	27	0.75	1.8倍
交群＋探群その他の夢	56	23	0.41	1

- 当事者アンケートでは、「将来の夢」や「夢をかなえるために努力していること」を聞いた。「夢」に結婚など好きな人との生活を挙げた人は、そうでない夢を挙げた人と比べて探し中の人で1.8倍、交際中の人では6倍も努力している事柄が多く挙げられていた。

恋は努力の源泉
－当事者アンケート結果から

人生いろいろ ♪♪(^^♪
ー支援者アンケート結果から

・結婚して4年がたつが少しずつ夫のお金の使い方が粗くなっている。
・結婚後旦那様の暴行がある。
・子育てについて妻の精神的な不安定さがある
・2人の気持ちにズレがある
・避妊薬を一日も欠かさずのんでいるか？
・本人たちは出産を希望している。しかし叔母が猛反対されている。
・親御さんたちが高齢になってこられたこと。etc.

多様なエピソードが・・・

パートナー生活というライフコースがある人生は、これまでの障害者福祉の文脈では目の当たりにすることがなかった事柄が語られていた。

ライフコース研究・「ぶ～け」取材で学んだこと

*個人のライフコースを彩る最も大きな要因はその人がどのような役割を担ってきたか、その役割（種類）の多さ。

*恋愛・結婚・子育て支援は、障害当事者の社会的役割を豊富化させることに寄与する。

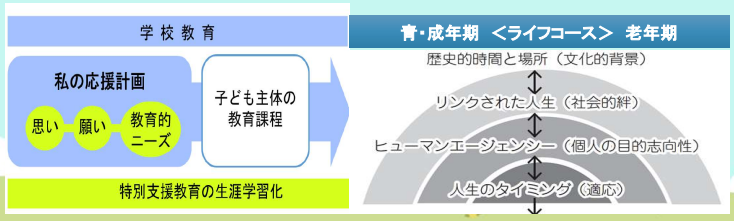
*そのことが社会参加と自立を促進する。

*これまでの就労支援だけでなく、スポーツ、文化活動を含む余暇・生涯学習支援、そして何よりも親元を離れて暮らせる生活に「一人暮らし」だけでない選択肢「二人暮らし」や「家族づくり」を加えた支援が求められている。

6 まとめ 「人としての働き」を高めるために

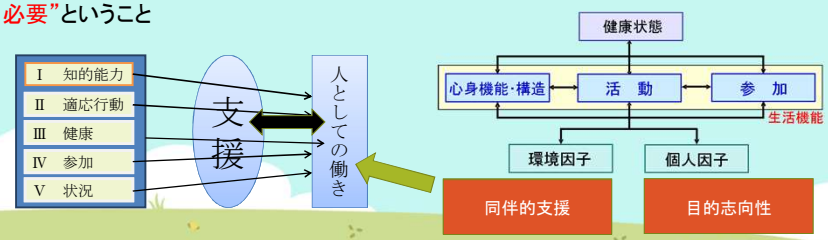
1）自分にも豊かな人生が切り開けると言う「将来への希望」
2）ありのままの自分が他人に受け入れられるという「受容的体験」
3）誰かの役に立ち誰かに喜ばれるという「愛他的経験」

Irvin D. Yalom



生涯にわたる発達は同伴的支援で！

障害があるとは、日常生活や社会生活において支障なく活動するためには“生涯にわたって特別な支援が必要”ということ

社会の役割は、そのための“文化的背景”と“社会的な絆”を提供すること

当事者が求めるのは“愛他的経験”を果たせる“つながり”＝友人やパートナー